

福 議 委 号
平成29年11月17日

福島町議会議長 溝 部 幸 基 様

経済福祉常任委員会
委員長 熊 野 茂 夫

所管事務調査報告書の提出について

本委員会は、福島町議会定例会9月会議（平成29年9月15日）において決定した、休会中の所管事務調査を終えたので、会議条例第147条の規定により、下記のとおり報告する。

記

| | | |
|---------|---|---|
| 調査事件 | 4 所管関係施設・事業等の町内視察について 執行方針の取り組み状況について | |
| 調査期間 | 平成29年10月23日 | 平成29年10月25日 |
| 出席委員 | 委員長 熊 野 茂 夫 副委員長 花 田 勇 委員 杉 村 志 朗 委員 平 沼 昌 平 委員 平 野 隆 雄 委員 溝 部 幸 基 | 委員長 熊 野 茂 夫 副委員長 花 田 勇 委員 杉 村 志 朗 委員 平 沼 昌 平 委員 平 野 隆 雄 委員 溝 部 幸 基 |
| 欠席委員 | なし | なし |
| 委員外議員 | なし | なし |
| 出席説明員 | 町 長 鳴 海 清 春 副町長 高 木 壽 産業課長 川 合 力 哉 産業課参事(水産) 寺 谷 志 保 産業課参事(農林・商工観光) 花 田 雅 昭 福祉課長 石 岡 大 志 建設課長 木 村 文 年 | 町 長 鳴 海 清 春 副町長 高 木 壽 企画課長 住 吉 英 之 産業課長 川 合 力 哉 産業課参事(水産) 寺 谷 志 保 産業課参事(農林・商工観光) 花 田 雅 昭 福祉課長 石 岡 大 志 建設課長 木 村 文 年 |
| 議会事務局職員 | 事務局長 阿 部 憲 一 次 長 鍋 谷 浩 行 主 査 谷 藤 悟 | 事務局長 阿 部 憲 一 次 長 鍋 谷 浩 行 主 査 谷 藤 悟 |

[委員会意見]

調査事件 4 所管関係施設・事業等の町内視察について

(平成 29 年 10 月 23 日・25 日調査)

本委員会が所管する施設・事業等の課題や問題点を把握するための町内視察を実施した。10月23日午前中に、小規模治山事業（法界寺地先）、横綱記念館落雪防止柵設置事業、普通河川河道整備事業（宮歌川）、新平和橋架替事業、町道吉野館崎線整備事業、福島町製氷貯氷施設、伊能忠敬記念公園整備事業、町道月崎団地7号線整備事業、新緑公園整備事業、観光案内看板等整備事業の視察調査を行い、午後からは視察調査の検討会を行い、10月25日には平成29年度執行方針の取り組み状況を調査したので、調査結果を次のとおり報告する。

【論点とした調査項目及び意見】

1. 所管関係施設・事業等の町内視察

(1) 小規模治山事業【産業課（農林）】

工事箇所を含む一帯の地層は崩れやすいことから、工事区間以外の場所についても十分注意されたい。

(2) 横綱記念館落雪防止柵設置工事【産業課（商工観光）】

落雪防止柵は階段を利用する町民の安全対策としてしっかり設置すること。
なお、設置の理由として説明のあった施設（屋根等）の老朽化については、速やかに施設全体の状況を把握し、必要な維持補修についての方向性を検討されたい。

(3) 普通河川河道整備事業【建設課】

特になし

(4) 橋梁長寿命化事業【建設課】

特になし

(5) 町道吉野館崎線整備事業【建設課】

特になし

(6) 水産物鮮度保持施設整備事業【産業課（水産）】

特になし

(7) 伊能忠敬記念公園整備事業【産業課（商工観光）】

当該公園については、これから整備が進むことになるが、公園駐車場の入口が狭隘に感じる。このままでは大型車が入れず、混雑時には入口での事故も心配されることから、漁港内のスペースを観光シーズンだけでも大型車専用の駐車場として利用するなど、北海道開発局との協議が必要と思慮する。

また、整備地周辺的环境整備（波消しブロック、国道擁壁、トイレ等）を行い、漁港道路擁壁（銅像の背後）を利用して伊能翁の足跡や測量風景を描くなど、見学者に銅像建立の趣旨を説き、蝦夷地測量の一步がこの吉岡から始まったことをアピールすることが必要と思慮する。

(8) 町道月崎団地7号線整備事業【建設課】

特になし

(9) 新緑公園整備事業【建設課】

特になし

(10) 観光案内看板等整備事業【産業課（商工観光）】

特になし

2. 執行方針の取り組み状況について

(1) 産業再生による雇用の創出

① 福島町がんばる地元企業応援条例について

今年始まった制度ではあるが、雇用奨励助成金の制度内容が町内の現状に合っていないと思われることから、現況を調査し検討願いたい。

② 早取り昆布を利用した食べる昆布プロジェクトの推進について

同プロジェクトについては、3年を目途に実施しており、その間の推移を見ながら検証していくことになるが、地元雇用等が生まれたことは確かであり、昆布の数量・価格等の課題はあると思うが2年目以降もスムーズな展開を期待する。

しかし、同プロジェクトをスタートさせるにあたって地元水産加工業者に協力をお願いした乾燥作業を、協力してくれた業者に何の説明もなく来年度は依頼しないことを決定したことについては、これまで協力的に対応してくれた地元業者に対して非常に失礼なことであると考えます。

地元水産加工業者に対し今年度の検証内容を含め今後の予定について十分説明するよう指摘する。

③ 販売流通倉庫への支援について

特になし

④ 新たな陸上養殖技術の開発による蝦夷アワビブランド化事業について

現時点では試験養殖段階であり今後の経過に期待する。

⑤ 漁港静穏域を活用したウニ蓄養事業について

これまでも、様々な類似事業を実施してきているが成功には至っていない、周年出荷が見込める事業であり今後の経過に期待する。密漁対策には万全を期されたい。

⑥ 浜の振興計画について

今、市場に流通している海産物等には福島町の名前が入ったものがない。

地元には昆布を始め様々な海産物があり、今後、アワビブランド化やウニ蓄養事業等が進められることから、これら事業に期待される周年出荷や端境期出荷などの優位性を生かし、福島町産を全面に出すよう積極的な対応を地元関係団体と協議、検討されたい。

⑦ 福島版営農モデルに基づく支援体制の確立について

営農モデルに基づく支援以前の問題として、営農モデルを実践する農業担い手の確保が課題であり、その点を解決しなければ営農モデルは機能しない

と思慮する。

異業種参入や就農者のきっかけづくりも模索しながら、担い手の確保に向けた対策を検討願いたい。

⑧総合調整に基づく支援策について

今回示された森林組合への支援策は具体的内容まで提示されておらず、今後、本委員会に報告するとのことだが、説明では当初計画された再建計画を短縮するため平成30年度から支援策を盛り込んでいくとのことであり、特に、①町有林事業費拡大支援と④健全な会計運営については、早急に具体案を提示されたい。

なお、支援策4の経理事務等については総合調整が入る大きな要因となった部分でもあり、二度と繰り返すことにならないよう、以前の所管調査報告書で示した経理事務のシステム化や事業進捗が見えるような対策については着実に実施するよう検討願いたい。

⑨プレミアム商品券について

特になし

⑩新たな観光資源の開発について

新たな観光資源として「岩部海岸のクルーズ船事業」を来年4月から運航するとしているが、資料や説明からは事業を始めるには船の問題や提供する食の問題等から準備期間に多少無理があり不安を感じる。新たな観光では最初に与えるインパクトが大事であり、4月運航に拘らずしっかり準備をしてから始めることを検討されたい。

(2) がん予防対策の充実

① 各種がん予防対策について

定期的な健診だけでなく、個人が病院で受診する場合にも対応できれば受診率も向上すると思われるため検討願いたい。

(3) 高齢者等の安心安全な生活環境の充実

①医師の確保に向けた活動について

特になし

②特別養護老人ホームへの支援について

特になし

③国民健康保険広域化への対応について

広域化へのスケジュールにおいて、特別委員会を行うことにしていることから、詳細についてはその際示されると思うが、今後予定されている町民への説明に当っては積算根拠を明確に示し誤解のないようにされたい。

④都市計画マスタープラン及び立地適正化計画の策定について
特になし